

学び舎通信 12月号

町内小中学校の情報を毎月お届けします

大小



言葉のリズムや美しさを体感
〜暗唱発表会〜

11月4日の5校時に、全校集会（暗唱発表会）を行いました。
丸山校長が「暗唱は、頭と心と体にとっても良いです。」と話されました。その後、1年生は「いるか（言葉遊びうた）」、2年生は「寿限無（落語）」、3年生は「はやくちうた」、4年生は「大河原町民憲章」、5年生は「英語での挨拶」、6年生は「竹取物語（古文）」を、声量や早さなどを工夫して堂々と発表しました。
当日は、児童が自信をもって発表する様子を齋教育長にも参観していただきました。

持久走記録会

11月に、南小恒例の持久走記録会を各学年で実施しました。児童はこれまで、「走れ南小」の時間を活用し、低学年800m、中学年1200m、高学年1500mの距離を走り込んできました。
当日は、深まる秋の美しい景色と多くの保護者の熱い声援の中、どの児童も自己記録更新を目指して懸命に走っていました。これからも体力向上を目指し、どんどん走っていきます。



南小

全小



花植活動

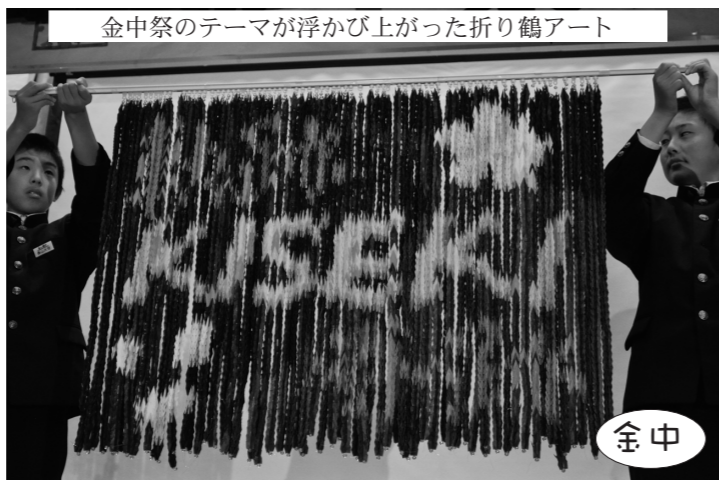
11月5日、全校でたてわり班ごとに花壇に約400株のピオラの苗を植えました。
はじめに担当の先生から植え方の注意を聞いてたてわり班9班ごとに1年生から6年生が植えました。
さすが6年生です。1年生や2年生の側に付きながら丁寧に教えていました。また、植えた後は水やりを進んで行ってくれました。
来年の5月ぐらいまで紫、黄色、オレンジなどの小さなピオラが金ヶ瀬小学校の校庭にきれいに咲きほころい、子どもたちの成長を見守ってくれます。



大中

県指定学力向上中間発表会

11月19日、本校を会場に研究会が開催されました。5校時の時間帯で国語、社会、数学、英語、理科の5つの授業を公開しました。県内外から200人を超える先生方をお迎えし、日頃の学習に対する生徒の頑張っている様子を見ていただきました。



金中祭のテーマが浮かび上がった折り鶴アート

全中

「軌跡 キセキ 奇跡」

10月31日、金ヶ瀬公民館を会場に金中祭が行われました。今年度は体育館建て替え工事の関係で多くの制約のある中、全校生徒でアイデアを出し合い、工夫を凝らし金中祭を創り上げました。生徒たちは「ピンチをチャンスに」変え、例年以上に一致団結し、上級生が下級生をリードし、一人何役もの役割をこなし準備を重ねました。閉会時の生徒たちの顔は満足感と達成感に満ちあふれていました。また新たに金中生の「軌跡」を残しました。



最近、家の中でどんな虫を見かけますか？今回は、勝手に皆さんのお宅に居候している害虫たちの今と昔を考えてみました。私が子どもの頃は、どこにでもノミ・シラミ・蚊・ハエなどが居て当たり前でした。なにしろノミ取り粉が店で売られ、シラミ退治のために頭が真っ白くなるほどDDTを振りかけられていたのです。夜は蚊よけの蚊帳を吊り、昼間は白石川でアブに刺されながら平気で泳いでいたものです。
当時はハエなどの害虫たちを駆除するお金の余裕もなく、衛生観念も今よりはるかに乏しい時代でした。毎日が食べることに必死で、たとえハエがたかっけていても空きつ腹を満たすことに

ほつが最優先だったのです。

現在はどうでしょう。ハエはトイレの水洗化で大幅に減りました。嫌われものだったゴキブリを以前より見ないのは、例のホイホイとれる仕掛けのおかげでしょうか。シラミやノミなんかは見ただこともない人のほつが多いのでは…。

今や家庭内害虫の主役は、シロアリや眼に見えないようなダニに変わったようです。ダニ用掃除機のCMを見るたびに「たかがダニ相手にこんな高価なものも売れちゃうの。日本は豊かになったんだ…」とつぶやいてしまいます。

夏になるとデング熱を媒介する東南アジア原産のヒトスジシマカが話題になるのが恒例になりました。日本では越冬できなかった蚊が都市部の気温上昇のために住みついたようです。こんな南国からのお客さんには「おもてなし」をパスしたいですが、用心だけは忘れたいですね。
今回は映画と虫と虫屋の話です。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん